

当院を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	-lactamase 産生黄色ブドウ球菌の菌血症症例に対するセファゾリン (CEZ) もしくはアンピシリン/スルバクタム (ABPC/SBT) による治療の臨床的有効性の評価
研究機関名及び 研究機関の長 (試料・情報の管理 責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	臨床感染症学講座 (職名) 講師 (氏名) 平井 潤
試料・情報の利用目的及び利用方法	<p>〔利用目的〕セファゾリン (CEZ) は、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) に対して、MSSA 感染症における標的治療の第一選択薬として位置付けられています。しかし、2019 年に CEZ の原薬への異物混入や製造の問題などから、CEZ の供給が停止し、多くの施設で CEZ が利用できなくなる状況に陥りました。その結果、 -lactamase 産生 MSSA 感染症に対する治療の代替抗菌薬として、アンピシリン・スルバクタム (ABPC/SBT) で標的治療を行うことを余儀なくされました。しかし、これまで CEZ と ABPC/SBT による治療を比較した研究は認められません。本邦において、今後も CEZ の供給が困難に陥る可能性もあるため、 -lactamase 産生 MSSA 菌血症に対する ABPC/SBT の有効性は、評価すべき課題であると考えています。本研究では -lactamase 産生 MSSA の菌血症に対する ABPC/SBT の臨床学的治療効果・予後を CEZ で治療した群と比較して検討することを目的とします。</p> <p>〔対象となる患者さん〕2014年4月1日～2022年3月31日に -lactamase 産生 MSSA の治療を CEZ もしくは ABPC/SBT で 7 日間以上治療を行われた 20 歳以上の患者さん。</p> <p>〔研究期間〕研究実施承認日 ~ 2022 年 12 月 31 日</p> <p>〔利用方法〕診療録から必要な情報を収集し、臨床的有用性を評価します。研究計画書および研究の方法に関する資料をご希望される患者さんは、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。</p> <p>〔他の機関へ提供される場合はその方法〕なし</p>
利用又は提供する試料・情報の項目	<p>試料：なし</p> <p>情報：年齢、性別、BMI、重症度、基礎疾患、血液検査結果、治療期間、副作用、予後など</p>

試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名	非該当
提供する試料・情報の取得の方法	非該当
提供する試料・情報を用いる研究に係る研究機関名・研究責任者名	非該当
利用する者の範囲	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2022年11月30日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学 臨床感染症学講座 担当者:(職名)講師 (氏名)平井 潤 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311(内線)37253